

1. 会津材活用の基礎知識

- ・ 伐り匂という、木を切るのに最適な時期があります。
- ・ 地域材としての会津材の定義は、山から伐って地元で製材加工を行うこと。
- ・ 福島県内の製材所等の連携により、乾燥処理、プレカット加工を行います。

会津材を活用する際には、木の伐採可能時期や丸太調達エリア、加工場所、品質管理等に必要な条件を理解する必要があります。

（１）会津材の年間工程

- ・ 丸太を伐採するのに適した時期を、伐り匂といい、10～3月の期間になります。（積雪期は休業）
- ・ 伐採、製材、乾燥、加工というプロセスがあり、必要な材料を効率的に調達するには約1年以上の期間を要する場合があります。

（２）地域材の定義

- ・ 施設計画時に「地域材」の利用という方針があります。その際の、地域材の定義を明確にすることが、共通認識を行う上で必要になります。
- ・ 丸太の伐採地が、建設予定の市町村内なのか、会津管内なのか、福島県内なのかを考える必要があります。
- ・ 「会津産丸太材を利用する」という指定方法もあります。そうすることで、木材調達を森林組合と製材所共同で検討しやすくなります。

（３）会津材の強度特性

- ・ 杉の無等級材は、国土交通省告示で曲げに対する基準強度（ F_b ）が 22.2N/m^2 以上という規定があります。
- ・ 会津材の曲げ強度試験の結果からは、 22.2N/m^2 を上回る、 43.71N/m^2 という強度試験結果が得られています。（参考：福島県林業研究センター研究報告第48号 2016「会津産スギ材の特性把握と利用技術」より）
- ・ 会津材は目が詰まっており、固い木であることが構造設計時に有利であることが考えられます。

（４）木材流通等の現状

- ・ 管内の製材加工施設は、その多くが小規模で、乾燥施設が少ない状況にあります。県内では、郡山市やいわき市などに、大型の木材乾燥施設やプレカット加工施設が整っています。
- ・ 公共施設で求められる木材の含水率を確保し、まとまった量の製材加工を行う場合は、管内の製材所が窓口となり、県内の諸施設と木材乾燥・加工体制を構築しています。

2. 会津材の製材情報

- ・木材寸法は、住宅の規格寸法材が最も入手しやすい寸法になります。
- ・木材乾燥釜やプレカット加工機から制作可能寸法が決まる場合もあります。
- ・製材のしやすい寸法、丸太を隔々利用できるバランスよい部材構成が理想的です。

(1) 地域材の対応可能寸法

- ・原木丸太は、通常2mと4mで伐採します。
- ・その他の長さの材は、事前に打合せ調達時間を確保できれば調達可能です。長さの最大は基本的に6mとなります。

①正角（人工乾燥材）

断面 (mm)	長さ (m)				
	3	4	5	6	6 超
105×105	◎	◎	6m材カット	○	特注
120×120	◎	◎		○	
150×150	△	△		△	
150 角以上	特注				

- ・◎：容易。○：やや困難。△：事前協議必要。
- ・5m材は生産なし、6m材カットで対応する。
- ・特注：1～2か月調達期間必要。

②平角（人工乾燥材）

材幅×材せい (mm)		長さ (m)				
		3	4	5	6	6 超
105	150	◎	◎	6 m材 カット	△	特注
	180	◎	◎		△	
	210	△	△		△	
	240	6 m材 カット	△		△	
120	150	◎	◎		△	△
	180	◎	◎		○	○
	210	◎	○		○	○
	240	6 m材 カット	○		○	△
	270		○		△	△
	300		△		△	△
	300 超		特注			

- ・◎：容易。○：やや困難。△：事前協議必要。
- ・5 m材は生産なし、6 m材カットで対応する。
- ・特注：1～2か月調達期間必要。

(2) プレカット加工可能範囲

部位	加工可能範囲		
	長さ (m)	幅 (mm)	高さ (mm)
横架材	0.3～6.0	90～150	90～450
柱・束	0.3～6.0	90～150	90～150